

=4.9反核燃の日=

再処理の稼働阻止を

六ヶ所村に1,800人が結集

一九八五年四月九日、青森県議会全員協議会でむつ小川原開発地域への核燃料サイクル三点セット立地受け入れを決

めたことから、反核燃団体は同日を「反核燃の日」とし毎年抗議行動を展開している。今年四月九日に、第二〇



集会・デモ行進には約1,800人が結集した(六ヶ所村)

回「反核燃の日」全国集会を、一五年ぶりに六ヶ所村で開催した。会場の大石体育館には全国から一、七八〇人の仲間が結集し「ウラン試験が始まるまで再処理は止められる」として日本原燃再処理工場稼働阻止を訴えた。

私たち国労青森地区協今も青森を中心に協議を重ね、各分会・OBの協力を得ながら四七人が集会に参加し、全国の仲間と一日行動を共にした。

集会は一時から、奈良岡実行委員の司会で始まり同全各代表者から「再処理工場は久留みで危険な施設」「操業前でも、アクティブ試験が始まれば大気や海に放射能が垂れ流される」「再処理計画は自然淘汰される運命にあるが、一日も早く止めよう」と挨拶があり、原子力資

令の対応に関する事項、⑤支社対応に関する事項等に分ける中で、あらためて今冬の冬期体制の不備や会社の認識の

て解明要求を作りあげる」取り組みとして、会議では各分会から報告された約五〇件の具体的事例を全体で協議した。

50件の具体的事例の事例

改善を求め解明提出を確認

《交渉委員・職協代表者会議》

四月二四日に「第二回地方本部交渉委員・職協合同会議」が盛岡市・国労会館で、関係者一四人が参加して開催された。

確認された「今冬の豪雪により輸送障害が多発し、その対応の中で多くの諸問題が起きた実態を集約して、冬期体制見直しも含めて、次期冬期体制に同じ過ちを繰り返さない取り組みを会社に求めて行くためにも、一ヵ月をかけて各職場で起きた具体例を集約・精査し

分会から報告された具体的事例を①共通事項、②地上設備除雪に関する事項、③車両設備除雪に関する事項、④指

不十分さによる輸送障害の発生であることが認識でき、マスコミ等にJR会社が強調する「数十年ぶりの豪雪。予想

今後五月中での解明要求の提出を目指して、とりまとめをしていくことを確認して合同会議を終了した。



今回の交流目的を含めあいさつする
江尻福島臨海労働委員長

その後自己紹

水戸鉄関労がIGR視察

出向組合員と実態交流会

地方本部は四月一五日一六日の二日間「水戸鉄関労組・IGRいわて銀河鉄道視察実態交流会」を盛岡市・国労会館で、岩手県並行在来線存続問題対策協議会・いわて銀

河鉄道出向組合員・視察団の東日本水戸鉄道関連労働組合・福島臨海労働組・鹿島臨海労働組・動力車労働組・国労水戸地方本部が構成、議長・高松水戸地方本部委員長を含め二六人(視察団一人)の参加で開催した。

交流会は、座長に奈良岡委員長を選出して進められ、交流団を代表して高松議長は「第一〇回水戸鉄関労組総会で、第三セクター問題を広く認識して公共交通を守ることと、経営の形態が変わるうと、そこに働く労働者の統一

的な労働条件の底上げが必要である。働くものの相互交流を通じてより良い職場環境を作るために有意義な交流会とした」と今回の交流会を企画した目的と、呼びかけに応えてくれた参加者に感謝の意を含めて挨拶した。

視察団一行は翌日にIGR線に乗り、初乗り運賃の高額さに驚き、毎日利用する人達は大変な出費を強いられることに「利用しやすい運賃設定が必要」との感想を持ちながら、公共交通を維持・存続させるには国・県の関与が必要であるとの認識をあらたにした交流会となった。

り、ウラン試験入りの次の段階としてMOX燃料工場の建設へ動き出している。最後に、県民の不安が依然として八〇%を超えている。この点を政策に反映させることが今後の課題であることを訴え講演を終えた。

四月八日、盛岡市・労働福祉会館で「元氣を出そう。二〇〇五春闘交流集会」(岩手県交運労協主催)が、加盟団体・単産代表者約四〇が参加して開催された。県内の交通運輸業に属する仲間が、春闘の現状・実態を報告し交流する目的で毎年開催されている。

主催者を代表して柴谷議長(運輸労連)は「今春闘の現状は、前年を若干上回っている内容であるが、中小は四月五月が山場となる。加盟団体・単産の情報をオープンにして、今春闘を盛り上げていく。今日の集いを契機として、中小の闘いを支えて連帯して闘おう」と決意を込めて挨拶をした。

その後、九単産から「有額回答はあったがあまりにも低額で、回答を突っ返している」「(中小一般労組)『国を相手に』規制緩和はすべきでない」との裁判闘争をしている。支援を(全自交労連)等、春闘の闘いや各単産が抱えている課題の報告があり、全体で支援して闘うことを確認し、最後に柴谷議長長の団結がんばろうで集会を終えた。

40人参加で 県春闘集会

岩手県交運労協

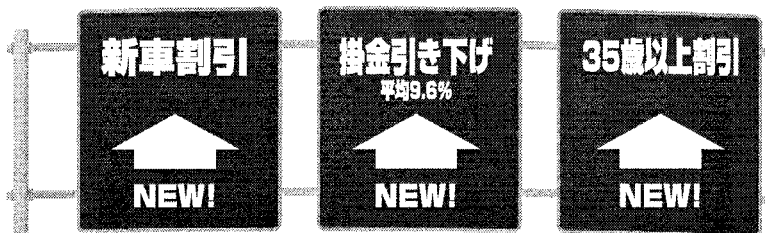
四月八日、盛岡市・労働福祉会館で「元氣を出そう。二〇〇五春闘交流集会」(岩手県交運労協主催)が、加盟団体・単産代表者約四〇が参加して開催された。県内の交通運輸業に属する仲間が、春闘の現状・実態を報告し交流する目的で毎年開催されている。

主催者を代表して柴谷議長(運輸労連)は「今春闘の現状は、前年を若干上回っている内容であるが、中小は四月五月が山場となる。加盟団体・単産の情報をオープンにして、今春闘を盛り上げていく。今日の集いを契機として、中小の闘いを支えて連帯して闘おう」と決意を込めて挨拶をした。

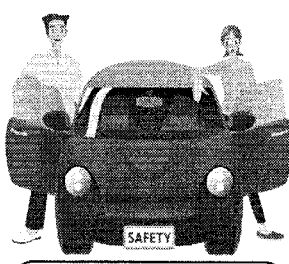
マイカー共済、快走!

2004年10月1日 制度改定

交通共済



低掛金を実現! 安心を強化!
マイカー共済が前進します。



無料ロードサービスも!

詳しい、内容等、お問い合わせください。

●最寄りの交通共済へ
●ホームページ<http://www.koun.or.jp>



新規加入者に、
クオ・カードへ1000円分
をプレゼントいたします